

障がい学生サポーター北陸ネットワークサミットの開催

事業責任者： 後藤 綾文（保健管理センター・特命講師）

概 要	北陸地域の大学等の障がい学生サポーターが集まる合同研修会「障がい学生サポーター北陸地域ネットワークサミット」を、本学の障がい学生サポーターが中心となり、企画・実施した。サミットに先立ち、障がい学生支援を積極的に行っている京都大学への先進地視察と、NPO 法人ゆにに赴いてノートテイク講座を受講した。サミットでは、参加者の所属大学におけるサポーター活動を発表し、それぞれの強みや工夫を知ることができた。さらに、具体的な支援技術の指導や訓練（ワークショップ）や、障がい学生支援に関わってきた教員による講演から、教職員やサポーター学生同士でお互いに学ぶことができた。
関連キーワード	障がい学生支援、ピアサポーター、北陸地域、大学間連携

事業の背景および目的

全国的に見て、障がい学生の大学進学者が増加しており、障がい学生が望む大学生活を送るために、サポーターの育成は喫緊の課題である。

今回「障がい学生サポーター北陸地域ネットワークサミット」を企画・実施することで、参加した大学等の障がい学生サポーターは、具体的な支援技術について獲得・訓練することができる。さらに、他大学のサポーター活動を共有することで、自身の大学のサポーター活動を展開するための示唆が得られると考える。

事業の内容および成果

【事業の内容】

「障がい学生サポーター北陸地域ネットワークサミット」の企画・実施

参加者

学生 13 人 大学教職員 10 人（参加大学 7 大学）

サミット当日の流れ

①各大学の活動報告

各大学で展開されている障がい学生支援活動について、参加学生が発表した。

②分科会（学生のワークショップ）

大学の授業は、PBL やアクティブラーニングなど、グループワークやペアワークを通して学ぶ授業形態が増加している。当日は、参加学生は決められたグループに分かれ、実際に補聴システムや音声認識アプリ、ノートテイクシステムなどを使い、その機器のメリット・デメリットもふまえながら、障がいのある学生がグループにいる事例について、どのような配慮が必要か、どのような工夫があるなどの学生にとってもわかりやすいかなど、グループで考えた。その後、障がい者疑似体験グッズを使いながら、自分たちが考えた支援方法でのグループワークを体験した。ワークショップ全体をふりかえり、障がい学生支援に、学生という立場で関わることの意義や難しさを改めて考える機会となった。

③これまで障がい学生支援に関わってこられた先生方による講演

【障がい学生サポーターに対する教育効果と福井大学に対する貢献】

他大学等を巻き込んだ「障がい学生サポーターネットワークサミット」を企画する中で、本学の障がい学生サポーターはグループディスカッションを行い、自分の強みや弱み、仲間の強みや弱みを考えながら役割分担し、当日までのスケジュールを組んで企画・準備作業を行わなくてはならなかった。サミット当日の運営にあたっては自ら考え行動すること、他大学のサポーターと積極的に関わる姿勢が求められた。これらの活動は、東海・北陸地域の障がい学生支援の充実という、地域の課題をテーマにしたアクティブラーニングであり、障がい学生サポーターのキャリア発達を大きく促したと考えられる。

本学の学生が障がい学生サポーター活動を積極的に行っている大学に先進地視察に行くことにより、本学の学生の支援技術やサポーター活動のレベルが向上するだけでなく、先進地視察での学びが「障がい学生サポーターネットワークサミット」で発表されることで、北陸地域の大学等全体の支援技術やサポーター活動のレベルを向上させることができたと考えられる。

また、アンケート結果では、サミットの内容について「大変満足」「やや満足」と回答した者が合わせて 100%、障がい学生支援に「大変役立った」「やや役立った」と回答した者が合わせて 100%であり、高評価を得た。学生が各大学のサポーター活動をお互いに学び、自身のサポーター活動の展開を考える示唆を得ることができただけでなく、教職員のみ参加された大学にとっても、福井大学の障がい学生サポーター活動や障がい学生支援の取り組みから自身の大学に活かすことのできる情報を得られたことがうかがわれる。

参考文献・添付資料および特記事項等

事業名称:障がい学生サポーター北陸ネットワークサミットの開催

事業責任者: 後藤 綾文 (保健管理センター・特命講師)

キーワード: 障がい学生支援、ピアサポーター、北陸地域、大学間連携

「障がい学生サポーター北陸地域ネットワークサミット(合同研修会)」を、本学の障がい学生サポーターが中心となり、企画・実施する。

事業背景

- ・障がい学生の大学進学者増加
- ・障がい学生サポーターの育成が課題

サミットの特徴

- ・具体的な支援技術の獲得・訓練
- ・他大学におけるサポーター活動の共有

サミットの成果

- ・支援技術の向上やサポーター活動のさらなる展開に向けた、障がい学生サポーター同士、彼らを支える教職員のネットワーク構築
- ・地域の課題をテーマにしたアクティブラーニングによる、障がい学生サポーターのキャリア発達

